

活き鮎通信

始良・伊佐地域青少年育成広報誌

発行
始良・伊佐地域青少年育成推進協議会
第54号 令和6年7月

〒899-5212始良市加治木町諏訪町12
始良・伊佐地域振興局総務企画課地域振興係
TEL 0995-63-8109 FAX 0995-63-8108
HP 鹿児島県始良・伊佐地域振興局 健康・福祉→検索

「令和6年度県青少年育成県民会議」総会開催

鹿児島県青少年育成県民会議は、県内各地域の青少年育成推進協議会や青少年育成市町村会議などの会員で組織・構成され、「家庭の日」推進事業や「少年の主張県大会」など、各種の青少年育成事業を企画、実施しています。6月6日（木）に県青少年会館で開催された総会では、令和5年度の事業報告・収支決算、令和6年度の事業計画案・予算案・新役員案等を協議して、承認されました。

また、令和6年度青少年育成県民会議の表彰式が開催され、6人の個人と2団体が表彰されました。始良・伊佐地域 個人の部 湯川 久子さん（始良市）、新田 瑠璃子さん（霧島市）、左近充 円さん（伊佐市）、団体の部 白金原子ども会育成会（始良市）

【青少年育成指導者の部】

氏名(市町村)	活動の主な内容
川口柳子 (鹿児島市)	ガールスカウト鹿児島第11団の発足時から運営に携わり40年間、スカウトの育成・支援に努めている。
西 昌平 (鹿児島市)	平成8年から日本ボーイスカウト鹿児島県連盟の活動に携わる。その間、CS隊インストラクター、SS隊長VS隊長として隊員たちの指導・支援を行う。
湯川久子 (始良市)	昭和58年以降、県青少年アドバイザー連絡協議会の会員・副会長として、会の結成及び組織運営に尽力している。
新田瑠璃子 (霧島市)	平成元年から地域の女性リーダーとして、青少年育成活動に熱心に取り組み、地域内外の子どもたちや子育て世代を見守り、支援している。
左近充 円 (伊佐市)	平成11年から宇宙少年団「伊佐フォーマルハウト分団」の分団長を務め、宇宙をテーマにした各種事業を通して青少年の育成に取り組んでいる。
小山岳富 (南種子町)	平成23年から南種子町公民館青少年育成部連絡協議会副会長、会長を歴任し青少年の育成・指導に取り組んでいる。



(ペットボトルロケット発射)



(左近充さん 表彰)



(ペットボトルロケット作り)

【青少年育成団体の部】

団体名(市町村)	活動の主な内容
白金原子ども会 育成会 (始良市)	昭和27年から白金原子ども会の活動支援を自治会や高齢者クラブ輝会と共同事業で展開している。公民館の花壇の水かけなどの奉仕作業や「敬老の日」に高齢者にお祝いメッセージを送る交流活動も行っている。
阿久根市更生保護女性 会 (阿久根市)	昭和36年から更生保護活動はもとより、青少年の健全育成・子育て支援活動に取り組んでいる。また、市内全域の学童保育9施設の全児童に対してクリスマスプレゼントを贈る活動を17年間継続している。



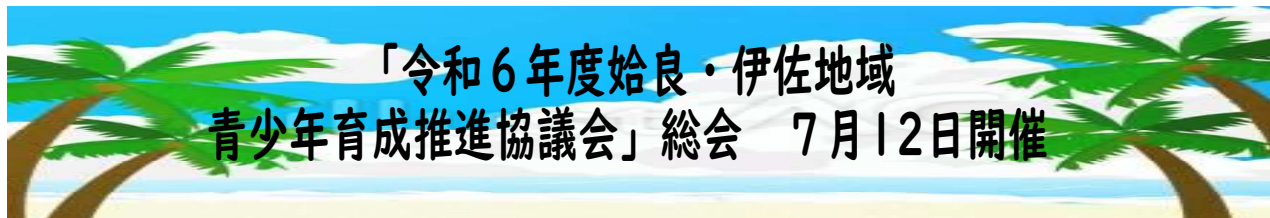
(子ども会 餅つき)



(白金原子ども会 表彰)



(子ども会 正月飾り作り)

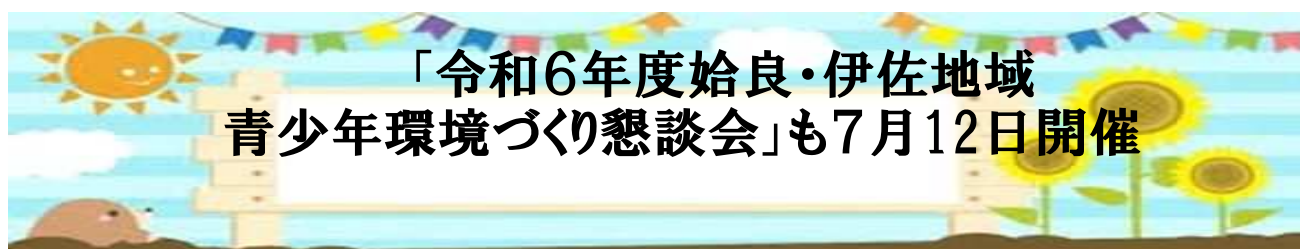


「令和6年度始良・伊佐地域 青少年育成推進協議会」総会 7月12日開催

本年度は新型コロナウイルス感染対策を少し緩和したかたちでの開催になりました。青少年育成市町民会議会長（各市町長）をはじめ，教育事務所長や警察署，各市町社会福祉協議会，PTA連絡協議会等関係団体の代表，青少年育成コーディネーター，地域振興局長等に出席していただきました。

総会では，令和5年度事業活動報告や令和6年度活動方針及び事業計画案，「郷土に学び・育む青少年運動」に関する管内4市町や警察署・教育事務所の取組状況等について協議し，情報共有を行いました。

本年度も「郷土に学び・育む青少年運動」を推進し，昨年度より大きな成果を収めるため，「かごしま地域塾」や「少年の主張」，「家庭の日」作品募集など多くの事業を一層拡充し，積極的に推進していきたいと思ひます。



「令和6年度始良・伊佐地域 青少年環境づくり懇談会」も7月12日開催

青少年健全育成活動の拡充を図るためには，まず，指導者の方々に時代の流れに即応した新たな指導方法を学んでいただき，指導者として一層の資質向上を図るために開催するものです。関係者の皆様には奮って参加いただきました。今後も多方面への声かけにお力添えください。（詳細は次号に掲載します。）

「第46回少年の主張鹿児島県大会」が8月4日(日)に開催されます。管内からは，山之氏 海帆（やまのうじ かほ）さん（加治木中2年）「周りへの愛」が作文一次審査を通過し，出場が決定しました。大会では山之氏さんを含め10人が自らの主張を発表します。出場おめでとうございます。

青少年の健全育成のためにみんなで定着させましょう！！



毎月の第3土曜日は，「青少年育成の日」

毎月の第3日曜日は，「家庭の日」

毎月の19日は，「育児の日」「食育の日」



★管内の小・中・高等学校では，職員室の行事黒板に毎月明記し，

加えて，該当週の金曜日に，各学級での呼びかけ指導の督励に努めています。

さらに，家庭の日は「サンデーファミリアン（家族揃っての食事会）」の実施を目指しています。



【トンボ釣り 今日はどこまで 行ったやら】（子どもの身を心配する親の気持ちです。）

令和6年春の「郷土に学び・育む青少年運動」取組から

【霧島市の取組】霧島市福山町では、地域の人々や自然と直接触れ合う体験を通じた活動が行われています。ふるさと福山の良さを感じ、他人を思いやる豊かな人間性を培い、地域の活性化に寄与できる青少年の育成を図る目的で、中・高校生クラブ（ひまわり活動）が、子育てサロンでの「読み聞かせボランティア」を行った後、1年間の活動を振り返るとともに閉講式も実施しました。



（読み聞かせの様子）

【始良市の取組】始良市立山田小学校では、地域の伝統芸能の継承・発信のために「下名棒踊り」に取り組んでいます。「運動会」・「やまだの里 かし祭り」・「やまだの里 鬼火炊き」と、年3回披露しています。地域棒踊り保存会のメンバーを学校にお招きし、本番に備えて練習を積み重ねています。古くから伝わる芸能を引き継ぐことにより、これまで知らなかった地元の魅力を再発見する良い機会となっています。



（「鬼火炊き」での棒踊り披露）

安全に気をつけて生活しようとする態度を養うことを目的として、「スクールガード隊へのお礼の会」を実施しました。児童代表のお礼の言葉に続き、それぞれ1人ずつに感謝の手紙を贈呈しました。

【伊佐市の取組】

伊佐市立平出水小学校では、児童の安全確保のために活動して下さっている方々へ感謝の気持ちを持たせ、これからも



（感謝の手紙贈呈）



（轟小 そば打ち体験）

【湧水町の取組】

3月に轟小学校を卒業する児童を対象に、かごしま地域塾「轟・おどろき塾」の活動の一環として地域塾コーディネーター植林伸洋氏を講師に「卒業記念そば打ち体験」を実施しました。11人の子どもたちは、初めての体験であり、そば粉に水を入れ練り込むことから、揉んで伸ばし、細長く切るところまで、熱心に取り組んでいました。また、そば打ちの後は、形は細かったり太かったりしたものの、手作りのそばに舌鼓を打ちながら、おいしくいただきました。

【各市町 春の郷土に学び育む青少年運動一覧】

	主 な 取 組 事 項
霧島市	○青少年育成センター指導員や補導員による校区パトロール街頭補導 ○中・高校生クラブによる読み聞かせボランティア活動 ○子ども会育成連絡協議会開催
伊佐市	○学校運営委員との連携 ○校区街頭補導 ○伊佐市さわやかあいさつ運動の実施 ○朝の朗読放送の実施 ○親子ふれあい活動 ○学校保健委員会やSNSに関する講演会及び情報モラル教室開催 ○緑の募金活動 ○薬物乱用防止教室開催
始良市	○登下校時の立哨や見守り活動の実施○地域学校協働活動（SSVC+）の推進○「あいらっ子」あいさつ運動強調月間 ○家庭教育ラジオ「まあるくなった」の活用 ○さくら祭りやウォーキング大会の実施 ○地域の伝統芸能の継承・発信
湧水町	○町民とあいさつ運動 ○登下校の見守り ○SNSについての啓発活動 ○地域塾の活動 ○青少年育成部長、町子連理事合同会議による周知活動

夏の「郷土に学び育む青少年運動」期間中!!

7月1日（月）から8月31日（土）までが夏の「郷土に学び・育む青少年運動」の実施期間となります。各市町教育委員会や青少年育成市町民会議等の計画で、色々な活動等が展開されると思います。関係者の皆様や団体のお力添え、御協力をよろしくお願い致します!

令和6年度ニッセイ財団児童・少年の健全育成助成団体紹介

ニッセイ財団は、毎年、地域活動の一環として定期的・継続的に実施している、子どもたちが行う自然体験・生活体験活動・仲間づくりや文化の伝承活動、地域の子育て支援活動に対して、都道府県知事の推薦に基づき助成し、活動の輪を広げています。

令和6年度の助成団体に始良市の「松原なぎさ校区コミュニティ協議会」(物品助成)が決定しましたので紹介します。

「松原なぎさ校区コミュニティ協議会」

- (1) 代表者 追鳥 嘉正
- (2) 設立年月 平成27年4月 規約施行
- (3) なぎさ未来塾・子ども食堂 年間利用者数
子ども数合計807人 大人利用者 246人
スタッフ 453人
年間合計 1,448人 (令和5年度)
- (4) 活動の内容 児童・生徒の居場所づくり支援
子ども食堂運営, 学習支援(フリースクール除く)
- (5) 主な活動 (令和5年度)
【事業内容】
 - 4月 なぎさ未来塾「わいわい食堂」月2回程度開催
「愛のあいさつ・声かけ運動」見守り隊対面式
 - 5月 いも植え体験会
グラウンドゴルフ大会
 - 6月 校区ウォークラリー大会
 - 7月 いも畑の草取り体験会
 - 8月 天体観望会
 - 9月 小学生ニュースポーツ大会
校区十五夜祭
 - 10月 校区対抗スポーツ大会
いも掘り収穫祭
 - 11月 帖佐八幡神社浜下り参加
校区対抗スポーツ大会
 - 12月 各部会対抗モルック大会
街頭募金活動
松原なぎさ市
 - 2月 松原海岸クリーンアップ作戦
冬の霧島に行く
 - 3月 「愛のあいさつ・声かけ運動」
公民館防災訓練



(助成団体 交付式)



(わいわい食堂)



(登校の見守り)

「家庭の日」の絵画, ポスター, 標語を応募しよう



応募期間は9月上旬。学校から教育委員会へ。
児童生徒の皆さん, 絵画やポスター, 標語を応募しませんか。詳しくは, 学校の先生に尋ねてください。



【霧島小校区青少年育成活動】6月10日(月)霧島神宮のお田植え祭りが、同神宮齋田でありました。霧島小学校の3・4年生14人と地域住民やJA職員約100人が豊作を願い、もち米の苗を手植えしました。



(大田小 田植え)

子どもたちは、赤色や水色の袴姿の早乙女、早男とともに齋田に入り2列に並び、丁寧に教えてもらいながら、慣れない手つきで、かけ声に合わせて、次々に植え付けていきました。3年生(霧島小 神宮田植え)の一人は「大きく育ててほしいと思い、いっぱい植えた。」と笑顔を見せていました。秋になると、実ったもち米は、神宮の祭りで奉納する餅などに使われます。また、近くの大田小学校でも田植えが行われ、米作りの大事さ・大変さを同時に体験しました。



【漆小校区青少年育成活動】6月1日(土)漆小校区で「デグ寺」紀行2024が行われました。漆の古寺デグ寺のお坊さんと、坊さんが救った狐のその後に想いを馳せる行事です。子どもたちも狐の嫁入り行列や史跡巡りに参加しました。また、夕刻には「蛍を見る夕べ」も行われ、校区の豊かな文化や自然に触れるとても良い機会となりました。

【羽月西小校区青少年育成活動】羽月西小コミュニティ協議会では、子どもたちと様々な体験活動等を実施しています。6月1日(土)には、羽月西小の子どもたちと「稚鮎放流」を行いました。



(羽月西小 鮎放流)

卵から孵化させた稚魚を、様々な大きさのバケツ(中には自分の胴回りよりも大きいもの)で受け取り、かきました。初夏とはいえ、水は少々冷たく、靴下を脱ぎズボンの裾を捲り上げた感じられました。

子どもたちは、心の中で「大きくなって、またこの川に戻って来いよ。」と念じながら、優しく放してあげました。小さな鮎は「水を得た魚」の言葉どおり、気持ちよ



(デグ寺 狐の行列)

さげに、柔らかな流れに逆らいながら、上流へ泳ぎだしていきました。また、梅の実ちぎりも行いました。今年は裏年で、数も少なかつたのですが、子どもたちは、緑の葉に隠された枝先にある黄緑の実を見つけると、懸命に手を伸ばしながら、一個一個もいできました。



(羽月西小 梅ちぎり)

【川原小・山田小学校区青少年育成活動】霧島の山田川が「通流の学びつつった」と笑顔を放した。長さ生き物に



(山田小 鮎放流)

【川原小・山田小学校区青少年育成活動】霧島の山田川が「通流の学びつつった」と笑顔を放した。長さ生き物に



(川原小 鮎放流)



(国分小 綱引き)

【霧島市立塚脇小学校 地域取組】

児童6人は、地域の方々の指導で、竹の子掘りを行いました。最初、探すのに戸惑っていた子供たちも、コツをつかむと土の盛り上がりを見つけ鋤を使って丁寧に掘っていきました。掘った竹の子の大きさに思わず歓声が挙がりました。



(塚脇小 竹の子掘り)

【伊佐市立山野小学校 地域取組】

今年も下之馬場自治会の皆様から、俳句年間大賞をいただきました。今年で4年目の年間大賞授賞式になります。自治会長の諏訪下さんが来校され、金賞・銀賞・銅賞の受賞者3人に賞状等を手渡ししてくださいました。子どもたちの俳句への取組の励みになっています。優秀作品を紹介します。



(山野小 俳句表彰式)

- [金賞] 6年 工藤 千聖さん 「うんどうかい 空までとどけ わたしのこえ」
- [銀賞] 4年 鈴木 莉奈さん 「じまんのくつ はいてとうこう つゆはれま」
- [銅賞] 1年 永野 雄大さん 「ひなたぼこ ぽかぽかみんな ねっころぶ」

【湧水町立栗野小学校 地域取組】

栗野小学校では、国の名水100選に選ばれた「丸池」の清掃活動を兼ねた生物観察会が行われました。かねては、きれいな水をたたえた丸池もこの日は、泥土が露わになるとともに、水生植物・動物が間近に観察できる良い機会となりました。子どもたちは、澄んだ丸池も清掃活動のお陰できれいさが保たれていることにも気づくことができました。



(栗野小 丸池そうじ)

【編集後記】54号から、青少年育成広報誌の名称を、伊佐・霧島・始良・湧水の頭文字から、1文字ずつ取って「生き鮎」通信としました。

地域内の青少年に、川内川・天降川・別府川などの清流を泳ぐ鮎のごとく、生き生きとした生き方を送ってほしいという願いと、鮎は川で生まれ、幼期は海で育ち、再び川に戻り、成長後産卵する遡河魚（そかぎよ）であることから、一旦、始良・伊佐地域を離れても、いつかは郷土に戻ってきてほしいという想いも込められています。

